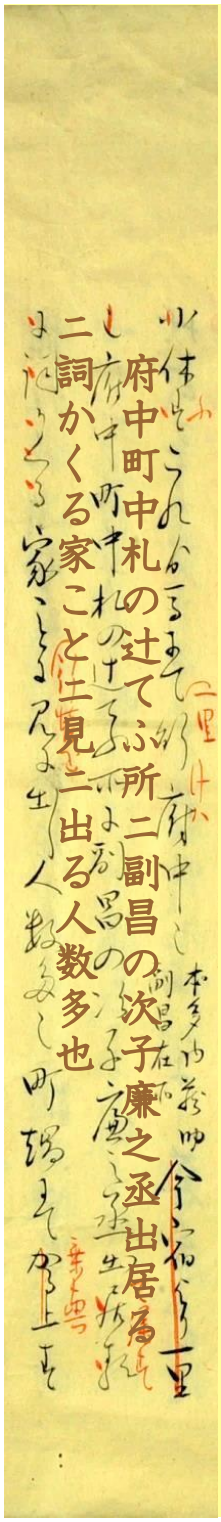

エピソード 10 部屋住み時代の富恭（とみまさ）

5 月 11 日（最終日）府中

今庄から 4 里（15.6 キロメートル）、今宿まできたところで、右に日野山が見えてきた。山はまだ雪化粧だ。行松、四郎丸ときて、松森でひと休み。

松森から 1 里、府中に着いた。ここは本多副昌（すけまさ）（内蔵助、当時は家老）の知行地だ。副昌の次男、廉之丞（当時 23 歳）が札の辻（現在の越前市「蓬莱」交差点）で出迎えてくれていたので、言葉をかける。

それにしても随分な人出だ。みな、行列を見ようと出てきたらしい。町はずれで駕籠に乗り、府中をあとにした。

（これより約半年後の 12 月 4 日、副昌の長男、廉之丞にとっては兄の副尚が亡くなってしまいます。そのため、次男の廉之丞が嫡男となり、安政 3 年（1856）、父の隠居にともなって家督を相続し、本多家の当主となります。この廉之丞は、後の富恭、春嶽・茂昭の下で家老を務めた人物です。）